

令和5年度

障がい福祉分野の ICT導入モデル事業 事例報告

法人名：社会福祉法人 白寿会

事業所名：児童デイサービス大きな木

事業所概要について

サービス種別	放課後等デイサービス・児童発達支援（多機能）
所在地	〒771-1506 徳島県阿波市土成町土成字大木116番地1
職員数	9名
事業所の特徴	未就学児から高校生まで発達に特性のある児童を対象に「安心できる場所」と「療育」を楽しく勉強し体験できる環境を用意。子どもたち一人ひとりの個性を大切に日常生活における基本的な動作の指導、知識技能の付与、集団生活への適応訓練を提供。

ICT導入の背景・目的について

【導入前の状況】

- 当施設は同一敷地内に小さな園庭を挟んで2階建ての建物が2棟（A棟・B棟）あり、主たる事務所がA棟にあるなど行き来のムダが生じていた。
- 個々の特性に応じた支援のあり方が多様化するなか、日々の支援記録やチーム間の情報共有、保護者からの連絡などの対応に物理的要因や構造上の問題がありムダが生じていた。

【導入の目的】

- タブレット端末導入で既存のWi-Fi環境を活用し敷地内のどこにいても支援記録の作成や画像・動画などの情報収集、チーム間の情報共有、アプリを使った保護者との連絡など迅速な対応ができるようにする。
- パソコンを一人につき1台配備し支援記録などスムーズに行える環境を整え空き待ち時間などの無駄を減らし業務の効率化を図る。

導入機器について

【導入を検討した機器】

- i p a d (W i - F i 対応)
- ノートパソコン (W i - F i 対応、ウイルスソフト含む)
- インカム

【導入した機器】

- Apple ipad Wi-Fiモデル 64GB 2台
- 富士通 LIFEBOOK A5513/NX (ノートPC) 3台
※ノートPCはTrellix protect (ウイルスソフト) を含む

ICT導入の実施体制の整備について

【職員研修】

- タブレット端末など携帯性の向上から懸念される個人情報の取り扱いに関する研修や建物外での使用時における一定のルールなど職員間で共有。また、端末に収集したデータ移行も含めスムーズに導入運用できるように取り組んだ。

【利用者家族へのアプリ活用の説明及び促進等】

- ICT導入及び既存ソフトウェア（記録や請求業務用）のアプリ化などに伴い、事業所と保護者間の連絡などの手段としてアプリ導入によるDX化の促進及び業務効率化を図った。

検証結果について

【導入前後の1人あたりの年間時間数】 ※職員数の変化に伴い正確な比較は難しいが**各作業時間**で見ると減少

	導入前（職員12名）	導入後（職員9名）	削減率
支援記録の作成	年間158時間 （ひと月315件、1件あたり 30分 で計算）	年間140時間 （ひと月315件、1件あたり 20分 で計算）	約11%
職員間の情報伝達・共有	年間8時間 （ひと月50件、1件あたり 10分 で計算）	年間6時間 （ひと月50件、1件あたり 5分 で計算）	25%
保護者から（との）連絡	年間10時間 （ひと月60件、1件あたり 10分 で計算）	年間7時間 （ひと月60件、1件あたり 5分 で計算）	30%

- ・ 端末の携帯性向上により迅速な記録や情報収集、情報共有が可能になった。
- ・ 戸外（敷地内）でも直接記録や画像撮影が可能にメモ減少につながった。
- ・ 端末の取り扱いなど物理的な問題がなくなり職場環境が改善された、etc.



児童や保護者とコミュニケーションをとる時間が増え質の向上につながりサービス提供上の安全性も高まった。今後、DX化など効率化を図る。

ネットワークイメージ図

